

人やものにかかわりを深める造形活動の指導

－「オリジナルカード作り」の実践から－

森 本 泰 史

1 はじめに

表現と鑑賞は表裏一体のような関係である。表現する際には、これまで自ら経験したことや観たりしたことが土台になっているだろうし、表現したことを振り返り、自らのみならず、他者によって自分の表現を認めてくれることにより、よりいっそう自分の表現に満足感、成就感を味わわせることができ、表現の喜びを味わうことになる。表現と鑑賞とが一体となった活動を明確に関係付けて内容を構成していくことは、大変有意義な活動ではあるのではないかと思われる。言い換えれば、表現と鑑賞は、それぞれに独立して働くものではなく、それぞれが相互にスパイラルしながら、高まるものであるのではないかと思う。そこで、ものや人のかかわりを強く意識することにより、より表現と鑑賞が相互に活動化するのではなかと考えた。

子どもたちは、造形の欲求を満たしながら、思いのままに活動し、また、想像的に働かせている。次々に新たな発想をしながら自らつくりだすことを楽しむことができるまでには、様々な体験を積み重ねてきているであろう。

身近なものや人にかかわりかけ、かかわりかけられて学び、学びながら子どもたちは、成長する。乳児は身近なものに触ったり口に運んだりしながらものとのかかわりを深め、幼児は紙などに線を引いたり、形をかいてその形に意味を付けたりする。そういう活動を通じて、自分の願いや思いを表す楽しさを感じるようになっていくと思われる。このような経験が、次第に子どもらしい想像力を育ませ、自ら学び、自ら考えながら、自分らしさを生み出すのだと考える。つまり、子どもは表現と鑑賞を常に相互に繰り返しながら、自らの表現欲求を高めてきたのではないだろうか。

2 かかわりを深める場の工夫

(1) 表現におけるものやひととののかかわり

領域の内容同士の垣根を広げ、関係付けて内容を構成する総合的に取り組む題材が、ものや人とののかかわりをより深めていくと思われる。この総合的に取り組む題材では、子どもは表現形式や方法を選択していくことで、多様な活動につなげていくことができる。また、様々なテーマを選べることでできる題材を工夫していけば、表したいものを自由に表現しながら、自分らしさを発揮することができるだろう。つまり、表現形式や方法、材料などから表現活動を追求、発見していくことで、造形活動を課題追求していく力を養うことができると考える。自分らしさを表現するために、自分にあった表現形式や方法をとるだろうし、また、自分の表現に合わせて、材料を自由に使うことができることを、体得していくことができると思う。その過程において、自ら様々なものと出会うだろうし、自他の表現の違いなどを気づき、話し合い、教え合いながら、相互理解していく場にもなる。

(2) 鑑賞におけるものや人とののかかわり

子どもたちは、具体的な体験や事物とののかかわりをよりどころとし、感動したり驚いたり、また、疑問をもち考えを深めていく。そこで、表現活動の導入や途中、終末に表現活動を振り返る場を設定するとともに、鑑賞する場を設けることで、そのよりどころを支援できるのではないかと考える。鑑賞を通じて、身近にある表現材料の生かし方、さらに、

よりよいものにするにはどのようにしていったらよいか、また、表現の喜びを味わわせることにより、もっと表現したいという意欲を生み出すのではないだろうか。

導入時には、一人一人がこれまで得た経験や考え方をもとに、創造的・個性的に表現しようとする。身近にある様々な表現材料の工夫や表現方法の試みを鑑賞すれば、児童生徒の思いや願いが十分に発揮できるような支援ができ、自分なりの思いや願いをもちそれをふくらます場になると思う。また、これまで経験した他の題材との関連を図ることも大切だと思う。表現欲求は旺盛だが自分の思いや願いを表す方法が分からない場合にも、方向性をもちながら思いや願いを広げることができるのではないかと考えた。

途中では、活動をしながらも、自他の自分らしさの違いや表現の違いに気づき、相互に認め合い尊重し合って、それぞれの造形に対する価値を見いだすことができると思う。

終末には、それを伝え合うために鑑賞カードに記述してもらうことにより、友達同士で表現のよい点を見つけ合うことができる。友達の表現のよい点を自分の表現に生かそうとするとともに、自分の表現のよい点に気づき、満足感、成就感を味わうことができると思う。この振り返りの活動から、その後の表現活動に見通しをもったりできるのではないかと思う。

3 実践題材

第4学年題材－「オリジナルカード作り」の実践から－

(1) 題材について

いろいろなものをプレゼントすることは、子どもたちの日常においても盛んに行われている活動である。オリジナルカードも、贈る気持ちを相手に伝え、また、意欲的に取り組める楽しさを提供してくれるものであると思われる。

子どもたちにとってオリジナルカード作りは、自分の思いを伝えるだけでなく、自分らしいデザインを考えることにより、一人一人の発想のよさを生かして積極的に材料を集め、工夫しながら用具にかかわっていく題材だと考える。その過程を通じて、子どもたちは贈るプレゼントや用途などを考えながら構想を広げ、創造的な技能を働かせるであろう。

鑑賞では、作品の柔軟さや、開放性、多様な表現形式に視点を当てることで、作品の構想を広げるきっかけとなればと思う。また、このカード作りは、人とのかかわりを大切にしていきながら、特に、そのカードを受け取り手を楽しくさせてくれものであるという相手意識を高めていきたい。さらに、感じたこと思ったことを話し合うことで、感性を高め、主体的に作品にかかわっていくことができる題材であると考えている。

本学級の児童は、行事にかかわって絵手紙を描いたり、年賀状を版画で作ったりする経験をしてきている。これまでの活動は、絵の具を使ったり、版画にしたりと一つの表現形式で作品を創ってきた。そこで、本題材では発想を次々と広げ膨らましながら造形活動を楽しむことができるように、表現形式も子どもたちに選択できるように考えた。これまでの体験をもとに、自分の思いと柔軟に対応できるように材料を選び、用具も考えながら構想を練ることから出発していきたい。

(2) 指導目標

- 1 自ら進んで構想を練りながら、創作活動を楽しむことができるようにする。
- 2 友だちの作品や親しみのもてる作品等のよさや面白さなどに気づき、自分なりの見方、感じ方を膨らませることができるようにする。
- 3 自分の思いにそって、発想や構想を広げることができるようにする。
- 4 用途を考えながら、材料を生かしたり、表現形式を工夫したりして、オリジナルカードを創ることができるようにする。

(3) 指導内容と計画 5時間

| | | 第一次(1) | 第二次(3) | 第三次(1) |
|----|-----------|--------|-------------|--------|
| 鑑賞 | これまでの作品 | カードの構想 | オリジナルカードの制作 | 自分の作品 |
| | 暮らしの中の作品 | | | 友だちの作品 |
| | 親しみのもてる作品 | | | ふりかえり |

(4) 活動の主な流れと支援・評価

第一次 <鑑賞・カードの構想>

①課題に向き合う

既習の造形活動を振り返りながら課題をつかむ。相手意識を明確にし、思いや考えを深めていく。

②テーマへの多面的なかかわり

一人一人の子どもの思いをみとりながら認め、励まし、自らの発想を支える。友達の発想のよさにも触れさせることでより意欲や自信をもたせることができる。

③多様な表現形式や方法や、条件にあう材料の選択

参考になるカードを鑑賞し、一人一人の思いをもとに取捨選択する。

④テーマ・構想の決定

子どもの実態に沿って、扱いやすい適切な材料、用具や発想をかきたてるヒントなる多様なモデルを用意し、意思決定を促す。重さ、大きさの条件と照らし合わせながら、柔軟に考える。

第二次 <オリジナルカードの制作>

①表現形式・方法の決定

一定の条件の中で、渡す相手のことや伝えたい内容をどのように表現していくか、様々な思い描きながら独自の発想を重ね、試行錯誤しながら創る。

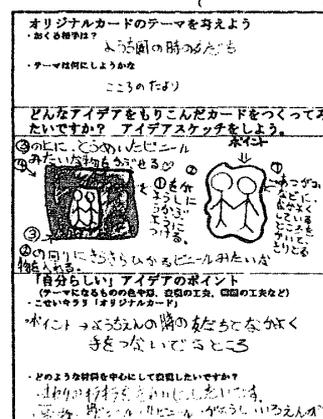
②試行錯誤→改善・修正・付け加え

様々な困難さや問題点に遭遇しながら解決方法を探る。判断しながら再構築する。

③ふりかえり

達成感、満足感、楽しさを感じる。

オリジナルカードをおくろう



第三次 <鑑賞・ふりかえり>

①互いの作品を見合う→かかわり合い

お互いの発想や工夫を見合うことでそのよさやおもしろさに共感したり、自分の考えに生かしたり感受したりしながら、意見をもつ。

②共感・認めあい

いろいろな角度からのよさを発見し、一人一人の発想や工夫のよさを的確に受けとめ、認めていく。(丁寧さ、アイデア、材料、表現方法、形、色、ユニークさ、構図など)

③ふりかえり

子ども自身のめざすカ、振り返る力を重視し「課題追求していく力」につなげていく。



4 題材における学習の実際(本時 第一次第1時)

(1) 本時の意図

本時は、題材の導入である。まず、これまでの活動を振り返りながら、受け取り手の思いに着目していくことをきっかけに、カードの具体的な内容を考えていく。様々な作品の鑑賞を通じて、個々の見方、感じ方を膨らませていき、特に、親しみのもてる作品として、ちぎり絵、コラージュ、素材を生かしたものなど、様々な表現形式によるカードを提示していき、表現の工夫を考える場にしたい。この鑑賞をもとに、カードの構想を練ることにより、大きな広がりをもった発想につながり、自分の思いを生かす表現方法に発展していくと期待する。さらに、創ったカードは、実際に切手を貼って相手に贈ることを伝えることで、創るカードの条件を考え、自分の思いを表現していく意欲を高めていきたい。

本時の目標

自分の思いを大切にしながら、多様な作品に親しみ、オリジナルカードの構想を練ることができる。

準備物 教師 ワークシート、親しみのもてる作品(教師自作の作品)、暮らしの中の作品、実物投影機、郵便ポスト
子ども これまでの作品

評価の観点

| | |
|--------------|-------------------------------------|
| 造形への関心・意欲・態度 | 創作活動の楽しさを感じることができる。 |
| 創造的な技能 | 自分の見方、感じ方を膨らまし、自分の思いを絵や文字に表すことができる。 |
| 発想や構想の能力 | 自分の思いにそって、発想や構想を広げることができる。 |
| 鑑賞の能力 | 作品のよさや面白さ、工夫などを感じとることができる。 |

学習の展開

| 学 習 活 動 | 教 師 の 働 き かけ |
|---|--|
| 1 学習のめあてを確認する。 ・版画で創った年賀状の鑑賞 ・「海の学習」の絵手紙の鑑賞 | 1 これまで自分たちが制作した作品を鑑賞し、それぞれの作品のよさを味わいながら、学習のめあてを確認する。 ・受けとり手の思いを感じとれるように促す。 ・鑑賞の場が効果的になるように工夫する。 ◎この活動をきっかけに、どんな場面をどう表したらいいか、考えるようにする。 |

| | |
|--|---|
| <p>2 どんなオリジナルカードにするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを考える。 心の便り、季節の便りなど ・思いを表現する場面を考える。 ・贈る相手を決める。 <p>3 様々な作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暮らしの中の作品の鑑賞 ・親しみのもてる作品の鑑賞 (教師自作の作品) <p>4 オリジナルカードの構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現形式の工夫を考える。 ・アイデアスケッチする。 ・材料や用具も考える。 | <p>2 したことや見たこと、感じたことなどを誰にどのように伝えると自分の思いが表現できるのか、伝える内容を具体的に考える場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品とのかかわりが深まるようにワークシートを活用する。 ・5W1Hの形式を参考にしながら、表現する場面を考える。 <p>3 様々な作品を鑑賞する場を設けることで発想を広げ、それぞれの表現(形式)のよさや面白さに気づくようにする。</p> <p>◎暮らしの中の作品は用途に、親しみのある作品は、表現形式に、着目しやすいものを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発想の偏りがないように、それぞれ数点提示する。 ・贈る作品の条件を確認する。(重さ、大きさ等) <p>4 思いがより表れるように、表現形式の工夫を考えながら、構想を練ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの構想を見合い、それぞれの表現のよさを共感し、認め合い場を設ける。 ・ふりかえりの場も設ける。 |
|--|---|

5 実践のふりかえり

- 総合的に取り組む題材は、自分の思いや願いを表現するための表し方や手順を自己決定することができると思う。
- 限られた条件の中でカードづくりは、はっきりとした目標に向かって工夫を凝らすことで、考える楽しさをもちながら企画していくことができる。
- 表現形式・方法に幅を持たせることは、一人一人の感性に沿って思いや創意を広げていき、表現欲求を満たしていったと思われる。
- 活動の途中で友達の発想や工夫を認めあったり、協力して手を貸し合ったり材料を分け合ったりなど、かかわりを深めることができた。
- 自分が何をどうしたいのか、進むべき方向を選択できるために、ワークシートを活用していくことで、整理していくことにつながっていったと思われる。
- 子どもものの思い(夢や願い)の実現のために、指導内容の精選や指導方法の工夫を進めていくことが必要であった。総合的な題材の基礎となる他の題材と関連を図り、2年間を通じて系統的に整理し、さらに指導計画の改善に生かせるようにもしていく。そうすることにより、子ども一人一人にとって創造的・個性的に表現する力を育てる指導がより一層、充実するものと考え。
- それぞれの活動において、思いや考えを具体化する過程において、様々なかかわり合いも育てていけるように十分配慮したい。
- 活動の中で継続した自己評価や相互評価など評価活動の充実も必要である。
- 鑑賞の指導については、定期的に表現活動に直接関係しない独立した鑑賞を行うようにする必要がある。
- ワークシートやアイデアスケッチなどによってできるだけ子どもの考えを理解し、適切な材料等を具体的に提示していく支援が必要であった。